

編集後記

「平和を考える小中学生作文集第三十四集」をお届けします。本年度はこの作文集に、小学生から二十九点、中学生から六十八点、計九十七点の作品が寄せられました。作品の一つ一つには、平和への願いがそれぞれの言葉で丁寧綴られています。

授業や本、そして、ニュースをきっかけに戦争について考え、戦争がもたらすものをストレートに表現した作品、戦争という出来事を後世に伝える貴重な資料に心を震わせ、平和の尊さを強く訴えた作品など、戦争と平和に対する考えが伝わってきます。筆者と想いを共有しながら、平和について深く考えることのできる作品ばかりです。「平和とは何か」「私達が生きている現代は平和だと言えるのか」と、読み手の私達にも問いかけます。

終戦から長い年月が過ぎ、戦争を経験された方の話を聞く機会は減り、積極的に知ろうとしなければ、過去の事実を見聞きする機会も少なくなりました。一方、ニュースでは世界で起きている現実が伝えられています。戦争に関するニュースが伝えられない日はないと言っても過言ではありません。未だ続いているウクライナ侵攻、再び動き出したイスラエルとパレスチナの対立により、この瞬間も多くの命や生活が失われています。凄惨さをニュースで知る度に、私達は心が痛くなり、時には、その悲惨過ぎる現実、目を背けたくなることもあります。しかし、日々の生活を送っていると、不意に自分自身とは別の世界で起きている出来事だと感じてしまうことが誰しもあるのではないのでしょうか。

私達の住む沼津市でも、戦争がありました。沼津のまちは一夜にして変わり果て、多くの市民が犠牲になったといえます。

そして、昭和六十二年、沼津市は「核兵器廃絶平和都市」を宣言しました。「世界の恒久平和を築くことは人類共通の願いである」「美しい地球、そして平和な生活を子々孫々まで守りぬく」。私達は、これからもその努力を続けていく必要があります。

作文集を通して、平和の尊さが未来につながっていくことを願います。また、これからの時代を生きる小中学生の皆さんが平和への思いをもち続け、夢と希望にあふれる社会を求める大人に成長してくれることを期待しています。

この作文集が、平和を願う私達の思いを一つにし、平和な世界への大きな一歩となりますように。最後に、この作文集を読んでくださった皆様方に心から感謝申し上げます。